

(9) 日本国特許庁 (JP)

(11) 特許出願公開

(12) 公開特許公報 (A) 平1-284791

(5) Int.Cl. ⁴	識別記号	府内整理番号	(4) 公開 平成1年(1989)11月16日
G 04 G 1/00	3 2 3	6781-2F	
	3 0 5	M-7809-2F	
G 10 L 3/00	3 0 1	F-8842-5D	審査請求 未請求 請求項の数 1 (全2頁)

(6) 発明の名称 音声認識腕時計

(2) 特願 昭63-112576
 (2) 出願 昭63(1988)5月11日

(7) 発明者 安保 洋子 東京都港区芝5丁目33番1号 日本電気株式会社内

(8) 出願人 日本電気株式会社 東京都港区芝5丁目33番1号

(9) 代理人 弁理士 山川 政樹 外2名

明細書

1. 発明の名称

音声認識腕時計

2. 特許請求の範囲

スケジュールを音声で認識する音声認識部と、前記認識されたスケジュールを記憶する記憶部と、基準時刻を発生する時計部と、前記記憶されたスケジュールおよび基準時刻を表示する表示部と、前記基準時刻とスケジュールとを比較して予め設定された時間帯にスケジュールを表示するよう制御する制御部とを備えたことを特徴とする音声認識腕時計。

3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明は音声認識腕時計に関し、特に音声で入力されたスケジュールを記憶し、予め設定されたスケジュール表示時間帯にスケジュールを表示する機能を有する腕時計に関するものである。

〔従来の技術〕

従来、音声認識機能を有する腕時計は、音声に

よる数値データを認識、記憶し、予め登録した単語音声の発声によつて記憶した数値データを表示するものであり、例えば電話番号などのメモ機能を提供するものであつた(参考文献:日経エレクトロニクス、1987.7.27 (no. 426) 215~222頁「音声認識LSIを使い音声で制御できる腕時計を構成する」)。

〔発明が解決しようとする課題〕

前述した従来の音声認識腕時計のメモ機能は、電話番号などの数値データ(「一」を含む)の記憶、表示を目的としているので、スケジュール管理への利用は容易ではない。また、記憶データを検索、表示するために登録した単語を誤つた場合または発声音声が変化した場合などでは記憶データの検索ができなくなるという問題があつた。

したがつて本発明は前述した従来の問題に鑑みてなされたものであり、その目的は、複雑な操作を要することなく、スケジュール管理を容易に実現可能とした音声認識腕時計を提供することにある。

〔課題を解決するための手段〕

本発明の音声認識腕時計は、音声で発声されたスケジュールを認識するために予め登録しておいた数値を含む単語または音節レベルの音声認識機能を有する音声認識部と、認識したスケジュールを記憶する記憶部と、予め設定した時間帯に記憶したスケジュールを自動的に表示するために時刻比較および表示制御機能をもつ制御部とを有している。

〔作用〕

本発明においては、音声認識部および記憶部の付加により、認識されたスケジュールデータの読み出しが容易となる。

〔実施例〕

次に、本発明について図面を参照して説明する。

第1図は本発明の一実施例による音声認識腕時計の構成を示すブロック図である。同図において、音声として発声されるスケジュールは、マイクロホン1から入力される。音声認識部2では入力音声の音響分析を行い、予め記憶部3に登録されて

るスケジュール認識、記憶機能を腕時計に付加することにより、複雑な操作を要することなく、時刻単位のスケジュール管理を行うことができる。さらに予め設定した時間帯に記憶されているスケジュールを自動的に表示することにより、記憶したスケジュールを逐一検索するという操作が不要となるなどの極めて優れた効果が得られる。

4. 図面の簡単な説明

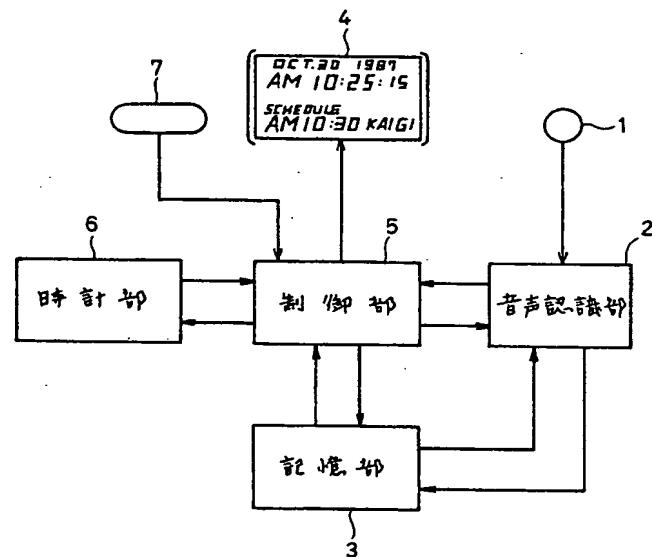
図は本発明の一実施例による音声認識腕時計のブロック図である。

1・・・マイクロホン、2・・・音声認識部、3・・・記憶部、4・・・表示部、5・・・制御部、6・・・時計部、7・・・操作スイッチ。

いる単語標準パターンまたは音節標準パターンと照合することによって認識を行う。この場合、確認のため、認識結果を表示部4に表示し、スケジュールデータとして記憶部3に標準パターンとは別の領域に記憶する。制御部5ではスケジュールデータの一部であるスケジュール時刻と時計部6において発生された基準時刻とを比較し、予め設定された時間前にスケジュールデータを記憶部3から読み出し、表示部4に基準時刻と共に表示する。また、制御部5は予め設定された時間後にスケジュールデータの表示部4への表示を消去する。スケジュールデータの表示および消去は操作スイッチ7によつて随時マニュアル指示が可能である。なお、この場合、記憶部3への音声標準パターン登録は、音声認識部2を音声登録モードとして行う。登録および認識のモード切換えは操作スイッチ7を用いたマニュアル指示により制御部5が行う。

〔発明の効果〕

以上説明したように本発明によれば、音声によ



特許出願人 日本電気株式会社

代理人 山川政樹(ほか2名)